（参考）資料２関係

VISION 2040

新・群馬県総合計画

The New Gunma Plan

ビジョン

ニューノーマル時代に目指すのは 3つの幸福が調和した快疎な群馬県

2040年までに直面する課題に対応するためのビジョン

ビジョンは、2040年までの群馬県を取り巻くさまざまな環境の変化を見通した上で、県民の幸福度の向上に向けた「目指す姿」と実現へのロードマップをバックキャスト思考*で描いたものです。このビジョンを策定した背景には、ニューノーマル（新しい日常）への転換がもたらす変化と可能性が大きく影響しています。それはどのような変化でしょうか。

<ビジョンの構成>

変化の見通し（P5） ▶ 目指す姿（P6・7・8） ▶ 実現へのロードマップ（P9）

変化の見通し

	2040年までに直面するであろう課題		ニューノーマルへの移行に伴う再定義（県仮説）
経済	● 全産業でデジタル化が進み、利益（ GDP ）を生み出す「価値」の源泉がシフトしていく。 ● 県が強みとしてきたものづくりのあり方が変わり、新たな価値の創出が求められる。	▶	▶ リモート化の進展のため、DXのペースは一気に加速する。
社会	● 2040年の県人口は高度成長前の規模（160万人強）へ縮小し、エリアによっては「地方消滅」に現実味をおびる。 ● さらに、東京の高齢化が群馬にも影響し、高齢者流入/若年者流出が進む。	▶	▶ 「ゆとりのある生活空間」が、安心・安全のベースになる。
環境	● 気候変動（地球温暖化）に伴い、台風・豪雨や酷暑等の自然災害が増加していく。 ● 一方で、県民を守るためのインフラは老朽化が進む。	▶	▶ 災害の多発化が常態化する。
国際	● ポスト資本主義を迎え民主主義の危機が顕在化し、国際社会の緊張が長期に及ぶことで、保護主義リスクが高まる。 ● さらに世界の人口が増加し、エネルギー、食料、水などの資源は需給が逼迫する。	▶	▶ 資源の逼迫（ひっぱく）が、食料やエネルギーから医療資源にまで拡大する。

ニューノーマル社会への移行

ニューノーマルへの移行で今後の見通しが変化

群馬県が2040年までに直面するであろう変化を経済、社会、環境、国際の4つの視点で整理しました。デジタルトランスフォーメーション（DX）*による産業構造の変化、人口減少、災害の頻発化・激甚化とインフラの老朽化、保護主義の台頭や資源需要の逼迫（ひっぱく）。このような厳しい見通しが予想される中、新型コロナウイルス感染症の流行により、社会がニューノーマルへ移行しました。その変化は多くの人にとって痛みを伴うものでしたが、ビジョンではその変化をポジティブに捉え、2040年の群馬県の姿を描いています。

知事解説

群馬県にとってはチャンスです

新しい時代の到来は「地方（群馬県）にとってのチャンス」と捉える柔軟かつ前向きな思考が不可欠です。実際のところ、ニューノーマル時代における地方の価値の再定義は、首都圏にありながら、豊かな自然と空間に恵まれた群馬県の強みを際立たせることになると確信しています。

用語解説
● バックキャスト思考…目指す将来の姿や目標を定め、そこから現在の課題などの現状を分析し今何をすべきかを考える思考方法。
● デジタルトランスフォーメーション（DX）…ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でよい方向に変化させること。

目指す姿

群馬県が目指す2040年の姿

年齢や性別、国籍、障害の有無等にかかわらず、
すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、
幸福を実感できる自立分散型の社会

目指すは「快疎（かいそ）」な群馬県

ニューノーマルでは空間的に広く、密ではない地域へのニーズが高まりました。これは地方にとって長年の課題であった人口減少が「東京よりも魅力的」な要素となる可能性が高まったことを意味します。ゆとりのある生活空間が安全・安心のベースとなり、他にはない価値を持ち、安定した地域だけが、人々を惹きつける求心力を持ち、勝ち残る。群馬県が目指すのは、人々を惹きつけられる「快疎（かいそ）」と定義しました。

3つの幸福の実現が「快疎」をつくる

ビジョンでは、2040年に目指す姿として、「誰一人取り残されることがない」こと、「幸福を実感できる」こと、そして「自立分散型の社会」であることを描いています。幸福とは、人によって異なります。そこでビジョンでは、群馬県が目指す社会の幸福とはどのようなものなのかを、誰にとっての幸福なのかという視点で考え、「一人ひとりの幸福」、「社会全体の幸福」、「将来世代の幸福」という3つの幸福を目指すこととしました。2040 年の群馬県はこの3つの幸福が調和した社会を目指します。

	20世紀の捉え方	幸福への疑問	目指す「幸福」
一人ひとりの幸福	型が定まった「幸福」 ● 画一的な仕事・暮らし ● 標準的な家族の形	● 堅調な経済指標のわりに実感のない幸福	多様な「幸福」 ● 一人ひとり異なる仕事・暮らし ● 良好な人間関係（コミュニティ）
社会全体の幸福（県民の共生）	固定的な「県民」 ● 県民=居住者・出身者	● 多様化する地域社会の参加者 ● 変化の激しい時代の弱者	多様な「県民」 ● 県民=+関係者・外国人・新たなマイノリティ
将来世代の幸福（持続可能性）	この時代の「県民」 ● いまを切り取った成長・配分の最大化	● 地域社会や環境の持続可能性への懸念	未来を含めた「県民」 ● 「ドーナツ経済学」による持続的成長

知事解説

群馬県は「快疎」の好適地

群馬県が目指す「快疎」は、その地域にしかない自然、産業、文化などの「土壌」を最新のデジタル技術にのせて発信できる人々を惹きつける求心力を持つ地域です。さらには、感染症に強いだけでなく、自然災害や資源途絶にも負けない地域でもあります。

3つの幸福

「県民の幸福度向上」は知事として最大のミッションです。幸福とは何か、その答えは人によって異なります。まして行政が決めつけるものではありません。しかし、物理的豊かさだけでは充足されることのない幸福が、今ほど求められている時代もないのではないでしょうか。

「県民の幸福度向上」がミッションです

ビジョン

「始動人」と「官民共創コミュニティ」自立分散型の社会をかなえる2つのイノベーション

目指す姿

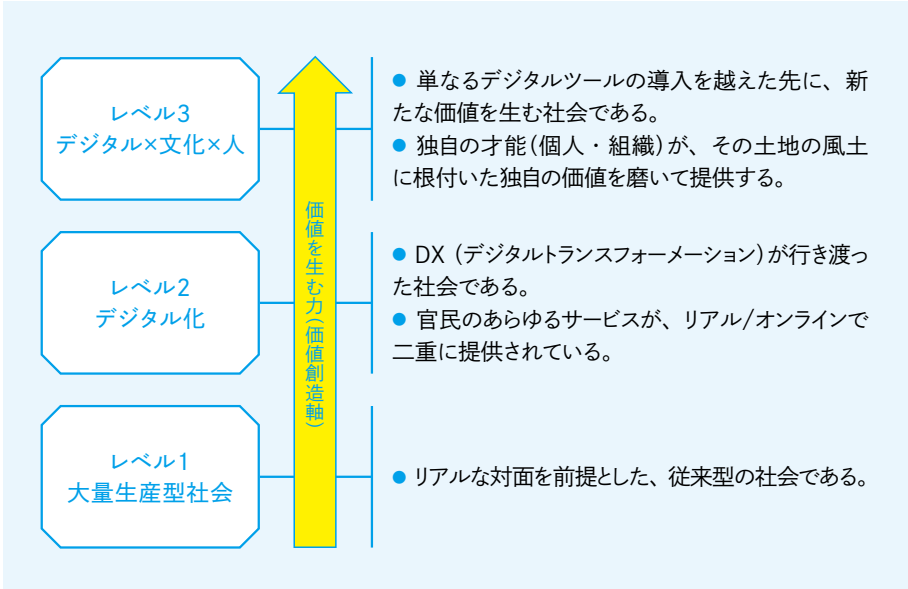
2軸で目指す自立分散型の社会

ビジョンで描く2040年の姿は「自立分散型の社会」です。この概念が「誰一人取り残さず幸福を実感できる社会」を実現する鍵となる概念です。ビジョンでは「自立分散型の社会」を2つの軸で描きました。それが「新たな価値を生む自立分散型社会」と「持続可能な自立分散型社会」です。この2つの軸を推し進めた交点に、県民の幸福度の向上が実現します。

始動人

A 価値を生む自立分散型の社会

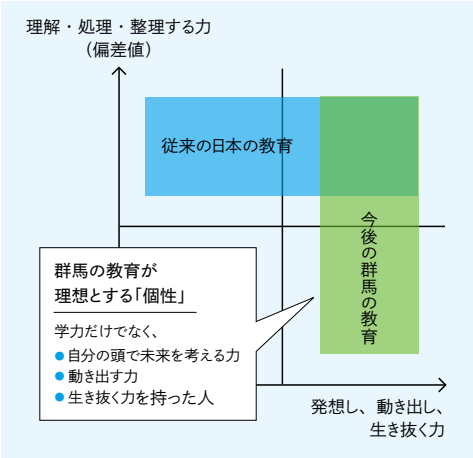
2つの軸のうちの1つは「価値創造軸」です。変化の見通しで見たように、今後20年間はデジタル化とともに価値の源泉がデータにシフトします。そのためデジタル化は必ず取り組まなければなりません。デジタル化に対応しながら群馬県が「快疎」な地域として魅力を増すためには、デジタルを地域固有の価値（文化）と結び付け、未来を妄想することで、新しい価値を生み出していく必要があります。「デジタル×文化×人」が、これからの群馬県の方程式です。



始動人
GVISION2040
新・群馬県総合計画

他人が目指していない領域で動き出す「始動人」

新たな価値を生むことで富が得られる時代に求められる人物像を私たちは「始動人（しどうじん）」と定義しました。「始動人」とは、「自分の頭で考え、他人が目指さない領域で動き出し、生き抜く力を持つ人」のこと。「始動人」は特別な人ではなく、誰もがその「かけら」を持っています。この「かけら」を育てていくことが重要で、このための長期戦略として、教育イノベーションを推進。「始動人輩出県」と認知されることをゴールに据えます。



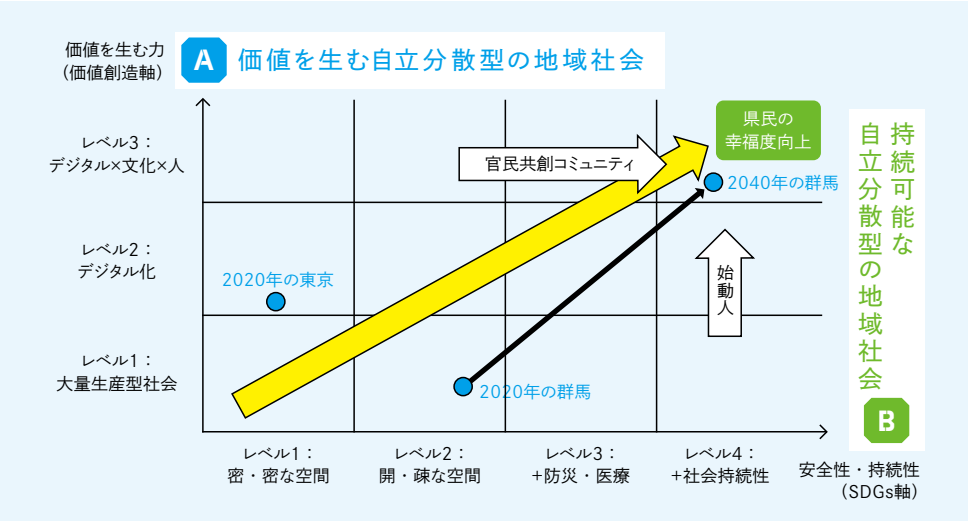
知事解説

創造が価値を生む時代に対応する人材

右肩上がりに経済成長してきた時代には、決められたルールと目標の中で、効率的に達成できる人物が評価されました。しかし、ルールや目標が明確でない中では、「始動人」が求められる人物像です。

誰もが「始動人」の「かけら」を持っています

教育イノベーションの推進（STEAM教育）



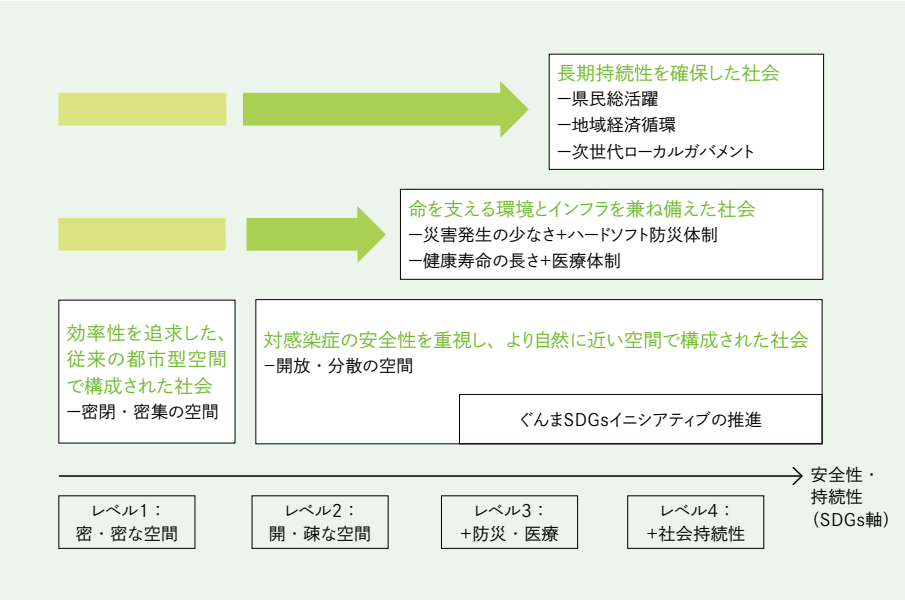
自立について

私たちが目指す「自立」は、独立・孤立ではありません。「自立」とは、特定の関係に過度に依存せず、多様で開かれた関係性の中で、主体性を発揮できることだと考えます。

官民共創コミュニティ

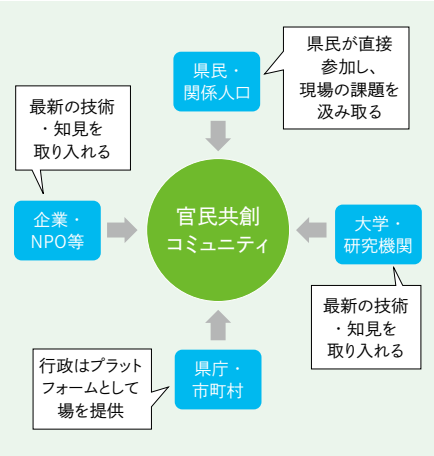
B 持続可能な自立分散型の社会

自立分散型の社会を実現するためのもう1つの軸は「SDGs軸」です。いくら新しい価値を生む産業があっても、地域として持続可能性がなければ将来世代は幸福になることができません。ビジョンでは持続性を維持するために必要な3つの要素を示しています。1つは、埋もれた才能を発掘する「県民総活躍」。2つめは、地域内の資源と資金の循環を高める「地域経済循環」。そして3つめは、産学官民が多様な分野で連携し、地域の課題を解決する「官民共創コミュニティ」です。



「官民共創コミュニティ」が100年持続する公共をつくる

今、世界中で、産学官民が多様な分野で連携し、地域の課題を解決する挑戦が進められています。ビジョンでは、こうした取組を改めて「官民共創コミュニティ」という言葉で表現しています。官民の力がつながることが、公共にイノベーションを生みます。共創の重要性を再認識し、県内各地でこの活動を加速させていきます。この中核的な拠点として県庁32階に官民共創スペース「NETSUGEN（ネツゲン）」を設置しました。



知事解説

地域の好循環で新たな価値を生む

「快疎」な地域で「始動人」を育成し、その「始動人」がさまざまな分野で活躍するとともに、「官民共創コミュニティ」の中核になっていく。こうした好循環をつくっていくことが、群馬県に人々を惹きつける、新たな価値や富を創り上げていくことにもつながります。

県内各地で
共創を生み出し
ましょう

県庁舎32階官民共創スペース「NETSUGEN」

ビジョン　2040年に向けた政策

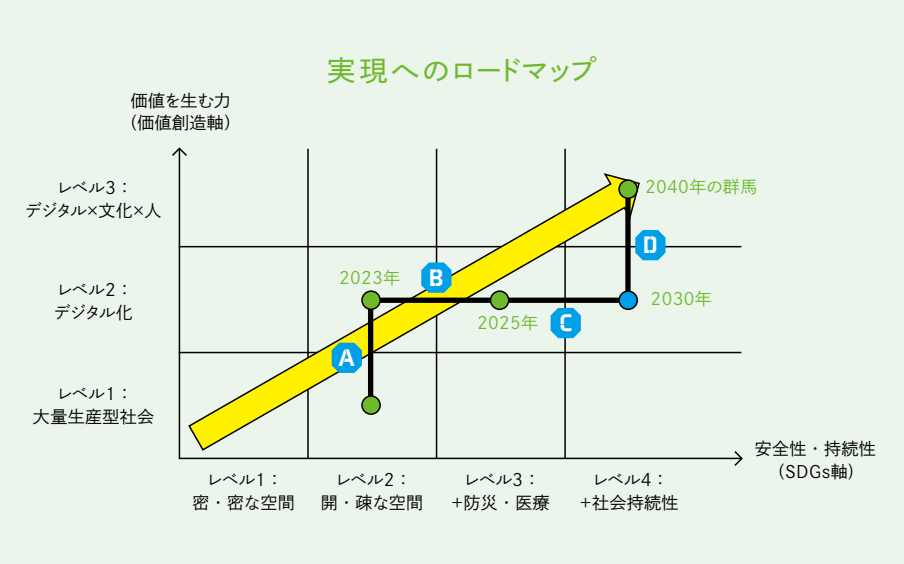
実現へのロードマップ

A 2023年までの重点政策

喫緊の課題は、コロナが必要性を浮き彫りにしたデジタル化。現状を挽回すべく、一気に取組を進め、2023年までに、日本最先端クラスのデジタル県となることを目指します。

B 2025年までの重点政策

コロナでさらに注目を集めた医療の提供体制。気候変動の影響により、激甚化、多発化する自然災害。県民の命に関わる安全確保の体制を、万全に整えます。



C 2030年までの重点政策

長期持続性の3つの柱（県民総活躍・地域経済循環・官民共創）を確立。国連がターゲットとする2030年には、県内SDGsの完了を宣言します。

D 2040年までの重点政策

自ら考え、新しい領域で動き出す力。後半の10年は、そんな力を持つ人たちが育ち、集い群馬をリードします。2040年には、新たな教育で育った「始動人」が行政・産業の中核を占め、世界最高クラスの魅力を備えた「新・群馬」が誕生します。群馬県は、常に時代の大きな変化を読み取り、新しい未来を想像し、進化し続けます。

＜ 7つの政策の柱 ＞

バックキャスト思考で描いた2040年に目指す姿の実現に向け、7つの政策の柱を設定しました。

	2020–2023	2023–2025	2025–2030	2030–2035	2035–2040
政策1 行政と教育のデジタルトランスフォーメーションの推進	→				
政策2 災害レジリエンスNo.1の実現	→				
政策3 医療提供体制の強化	→				
政策4 県民総活躍社会の実現	制度導入・立上げ	社会参加率の増加			
政策5 地域経済循環の形成	先進エリアでの施行	県内全域への拡大			
政策6 官民共創コミュニティの育成	組織の立上げ	活動の拡大・深化			
政策7 教育イノベーションの推進と「始動人」の活躍	新たな教育の拡大	始動人の社会参加	始動人の活躍が新たな始動人を育て、惹きつける自然循環		

知事解説

新・群馬県総合計画はこれからが始まりです！

新・群馬県総合計画は策定して終わりではありません。具体的に絵（ビジョン）を描いた後は、いかに実行するかが重要です。このビジョンは、県の力だけで実現出来るものではありません。市町村、企業、団体、県民の皆さん一人ひとりが考え始め、動き出すことで目指す姿に一歩ずつ近付きます。一緒に力を合わせ、私たちの群馬県を力強く前進させていきましょう。

基本計画

ビジョン実現に向けた 7つの政策の柱

基本計画は、ビジョンの実現へのロードマップで設定した7つの政策の柱ごとに、2040年の姿、具体的な施策、KPI（重要業績指標）を設定。
各政策の進捗、達成状況を毎年度把握し、5年経過時の計画の見直しに反映させていきます。

政策1 行政と教育のデジタルトランスフォーメーションの推進

2023年までに最先端のデジタル県となることを目指し、
全体最適化と個別最適化を両立した社会課題の解決の前提となるデジタル化に集中的に取り組む。

<2040年の姿>

2040年の群馬県の行政は、ICTなど先端技術を駆使し、職員数が減る中でも必要な行政サービスを提供している。また、さまざまな主体が結びついて公的な役割を担うことで多様化する住民ニーズに対応するプラットフォームとなっている。教育は、社会全体のデジタル化の進展の中で、ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学び、群馬の土壌を生かした探究的な学びにより、時代を先取りした「群馬ならではの新しい学び」を一層推進している。

<主な施策>

行政
- 申請手続のデジタル化を進め、県民の利便性を向上
- デジタル技術を活用し定型的な業務の効率化を図り、職員は政策立案業務などに注力できる環境
- デジタル技術を活用し、場所にとらわれない働き方（テレワーク）を実現

教育
- ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びを推進
- 県内の小中学生及び高校生1人1台端末を整備・活用（端末整備はR2年度中）
- 学びのデータの蓄積による小中高連携を推進

<主なKPI>

	スタート時	2025
行政手続電子化率	集計中	100%
児童生徒のICT活用を適切に指導する能力が身についている教員の割合	71.7%（全国26位）	95%以上

用語解説
- デジタルトランスフォーメーション（DX）…ICTの浸透が人々の生活をあらゆる面でよい方向に変化させること。
- ICT…「Information and Communication Technology（情報通信技術）」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションを指す。情報処理だけではなく、インターネットのような通信技術を利用した産業やサービスなどの総称。

政策2 災害レジリエンスNo.1の実現

気候変動の影響により、激甚化、多発化する自然災害から県民の命を守るための安全を確保する体制確立に向け、
2025年までに集中的な取組を進める。

<2040年の姿>

2040年の群馬県は、気候変動の影響等により、気象災害の頻発化・激甚化が常態化する中、ハード・ソフト両面からレジリエンスの強化が進むことで、経済活動の継続性が確保され社会的・経済的損失のリスクが低くなるとともに、県民の防災意識が向上し迅速かつ適切な避難行動がとれるようになり人的被害のリスクが低くなるなど、安全・安心な地域社会の基盤を確立している。

<主な施策>

- 越水・溢水や内水被害が発生した地域などの安全性の向上
- 頻発化する豪雨に対応する河川やダムの機能の維持・回復
- 災害時にも機能する強靭な道路ネットワークの構築
- 水害による「逃げ遅れゼロ」に向けた避難行動の促進
- 災害に強い森づくり

<主なKPI>

	スタート時	2025
水害リスクが軽減される人家戸数	8,819戸	32,818戸
水害リスクが軽減される産業団地数	1団地	10団地

用語解説
- 災害レジリエンス…想定外の大規模な災害時においても、致命傷を回避しつつ被害を最小化する「防災力」、そして、県民の暮らしや経済活動を速やかに立ち直らせる「回復力」のこと。災害に対する強靭性。
- 共助…コミュニティ内の近隣住民などがお互いに助け合うこと。自助（自分や家族の暮らしを守ること）や公助（行政等による支援・救助）の中間とされる。

政策 6

官民共創コミュニティの育成

長期持続性を高めるための取組の場として、
さまざまな分野で多様な「県民」の交流からイノベーションが生まれる「官民共創コミュニティ」を立ち上げていく。

<2040年の姿>

2040年の群馬県は、さまざまな分野で産学官民が連携し、群馬の土壌を生かした個性あふれるたくさんの「官民共創コミュニティ」が立ち上がり、地域で重層的に重なり合って、地域の魅力を創り出す。この魅力が求心力となり、新たな「始動人」を惹きつけ、「官民共創コミュニティ」で活躍することで、官民共創コミュニティが自然に立ち上がり、活動し、課題解決に結びつく循環が生まれている。

<主な施策>

官民共創コミュニティの芽をつくる

- 地域ビジョンづくり支援とファシリテーターの育成

地域課題解決

- 住民主体の地域活動（地域運営組織、地域づくり団体等）の促進

住み続けられるまちづくり

- 公共施設・空間の新たな活用による「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出

官民共創スペース「NETSUGEN」の運営（県庁32階）

- 多様な人材の交流、新たな事業への挑戦、地域課題の解決に繋がる事業実施

スタートアップ支援

- 自律的にイノベーションが起きる「スタートアップ・エコシステム」の形成

スポーツによる地域創生

- アウトドアスポーツを活用して、交流人口を増大させる

文化による地域創生

- アートを活用した地域振興

観光の新たな魅力創出

- ニューノーマルに対応した観光地づくり

森林と農村の新たな価値の創出

- 「森林ビジネス」の創出

豊かな水を守る利根川水系の「上流社会」としての責任

- 自立した林業経営による森林整備の推進

<主なKPI>

	スタート時	2025
● 地域ビジョンから生まれた共創の取組件数（累計）	—	45件
● 地域運営組織数	66団体	90団体
● スタートアップ支援事業による支援起業家数（累計）	—	150件
● 「森林ビジネス」取組地域数（累計）	13地域	25地域

用語解説
- ファシリテーター…原義は促進者となるが、ここでは参加者の合意形成や目的の達成を促すため、中立的な立場からワークショップ等の進行を行う者。
- スタートアップ…短期間で、イノベーションや新たなビジネスモデルの構築、新たな市場の開拓を目指す動き、または概念。

政策 7

教育イノベーションの推進と「始動人」の活躍

自ら考え、新しい領域で動き出す力を持つ人たち（始動人）が育ち、集い、群馬をリードする社会を目指し、教育改革を進める。

<2040年の姿>

2040年の群馬県は、多様性を認め合い、豊かな人間性を育む教育に加え、ICTなど先端技術を活用した個別最適な学びと協働的な学び、群馬の土壌を生かした探究的な学びによる、「群馬ならではの新しい学び」で育った「始動人」が、産業や行政、地域そして教育などさまざまな領域で活躍し、新たな「始動人」を輩出している。

<主な施策>

- DXを基盤とした新しい学びの確立
- ICTを活かした教育の推進により、障害の状態に応じた個別最適化された学びを推進
- 多様な学習機関と連携し、さまざまな学習サービスについて、ICTを活用して体系的、総合的、広域的に提供
- 大学連携による産業人材育成
- 中高生をメインターゲットに自由な発想を育成

<主なKPI>

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合

	スタート時	2025
● 小6	79.7%	95%以上
● 中3	76.2%	95%以上

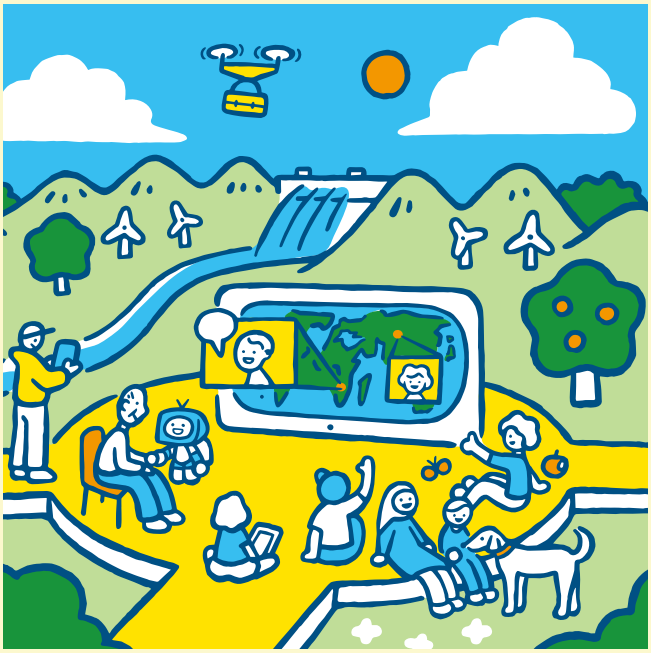
2040年

みずから思い描く人生を生き、幸福を実感できる社会へ

新型コロナウイルス感染症の拡大により、
私たちの生活様式に抜本的な変化がもたらされました。

その変化に気付きながらも、動き出さなかったり、
現状そうはできないと目先の問題ばかりに
とらわれていないでしょうか。

群馬県は、2040年の目指す姿へ向けて新たな一歩を踏み出しました。



あなたはどんな未来を思い描き、どんな一歩を踏み出しますか？

G VISION 2040
新・群馬県総合計画